

発達支援コラム④

こどものはったつ相談室

第4回テーマ 「効果的な 声かけの仕方」



毎日の子育てが少しでも楽になるよう、小川小学校の通級指導教室「まなびの教室」教諭 森垂矢子先生によるコラムを6回にわたり連載しています。

問合先 こども相談センター

TEL 626-1165 FAX 626-2187

声かけのタイミング

子どもに何度同じことを言っても、『望ましくない行動』がずっと続くことってありますよね。例えば、「動き回るのをやめなさい!」と何度言っても動き回っている、というようにです。このような場合、その声かけの仕方を見直す必要があります。それは、構ってもらいたくて動き回っている可能性があるからです。このような場合は、動きが止まった瞬間をとらえて、「おっ! 止めたね! えらい!」と声をかけた方が効果的です。つまり、『望ましくない行動』が出た時に声をかけるのではなく、『望ましい行動』が出た時にこそ声かけをします。

いくつか例を挙げてみたいと思います。子どもが漢字の練習をしている時、どうしても雑な字に目が行き、「この字、書き直しなさい!」と言ってしまいがちですよ。子どもはうんざりした表

情で嫌々書き直すことになります。このような場合は、書いてある字の中で、一番丁寧に書けている字を探してみてください。そして「この字、いいねえ。こんなにいい字が書けるあなたなら、この字も、もつときれいに書けるんじゃない?」と声をかけるのです。そうすると、大抵、気持ちよく書き直します。「頑張っている所はちゃんと認めているよ」というメッセージが届くからでしょう。

また、子どもがテストを見せてきた時も、×が付いている所を見て「何でこんな問題を間違えるの!」と怒りたくなりましますよね。そう言いたくない気持ちこそグッと抑えて、まずは、○が付いている中で、一番難しい問題を一つつけてください。そして「よく、こんな難しい問題が解けたね! これが出来たのなら、このうっかりミスはすぐく悔しいよね。今度は見直しをしっかりしてみようね」と声をかけてみてください。このように、ま

ずは頑張りを認める声かけをしてから、次の課題を伝えるようにする訳です。人は、自分を認めてくれる人のもとでこそ「もつと成長したい!」という思いをもつのだそうです。子どもの言動を否定するのではなく、まずは出来ることや頑張りを認め、望ましい言動を引き出すような声かけをしていきたいですね。

